



10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

当事者A	年齢[ 29 ]歳、勤続年数[ 11 ]年、現場経験年数[ 11 ]年、階級[ 消防士長 ]、同様の活動 [ 頻繁 ]、任務 [ 隊員 ]
当事者B	年齢[ ]歳、勤続年数[ ]年、現場経験年数[ ]年、階級[ ]、同様の活動 [ ]、任務 [ ]
当事者C	年齢[ ]歳、勤続年数[ ]年、現場経験年数[ ]年、階級[ ]、同様の活動 [ ]、任務 [ ]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	出火建物人命検索開始	
経過2	当事者A	空気呼吸器の残圧が無くなった為退出	
経過3	当事者A	出火建物再度検索開始	
経過4	当事者A	要救助者無し、火点を確認1階放水隊に連絡する為、退出しようとした際、濃煙のため、荷物搬入口より身体のバランスを崩し1階部分へ転落したものの。	
経過5	当事者A	救急隊にて医療機関へ搬送される。	
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思いませんか？

ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思いませんか？

危険情報を把握、予見できなかった。避難・退避がうまくいかなかった。周囲の視界が確保できなかった。

心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c . 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d . 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	はい

装備・資機材について

e . 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	はい

活動環境について

f . 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g . 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h . 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

指揮・管理について

i . 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k . 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

その他

l . その他の理由があった。

はい：活動危険の早期把握と徹底ができていなかった。
---------------------------

【事故発生後の取り組みについて】



注意力欠如、焦り等の対策について

--

装備・資機材の対策について

信号機付投光器・熱画像直視装置・発光式ロープ・隊員間用トランシーバーの導入により、進入隊員の安全管理を強化。 では、特別救助隊のみ配備	但し、現段階
--	--------

活動環境の対策について

情報管制員を導入するなど、指揮本部の充実を図っている。
-----------------------------

指揮・情報伝達の対策について

三大危険情報（人命・活動・延焼）の早期収集と徹底 要な場合は至急報にて報告、周知する。	特に重
--	-----

2階荷物搬入口

フォークリフト

3.0m

4.8m

2階へ  
足付階段

1階

フォーク  
リフト

